

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が確認されています

令和元(2019)年11~12月に実施した調査では、イネ縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカの越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は県平均で6.7%と平年並でした(図1・表1、県平均の平年値:6.8%)。保毒虫率を地域別に見ると、県中南部では依然として高い(防除が必要とされる保毒虫率10%を超える)地点が複数確認されたほか、県北部においてもやや上昇傾向にありました。

越冬世代幼虫の生息密度は34.4頭/10㎡と、平年よりやや少ない(平年比52%)状況でしたが、今後の気象条件によっては、来春のヒメトビウンカ第一世代幼虫の発生量が多くなる可能性もあり、注意が必要です。ヒメトビウンカは、再生稲やイネ科雑草に寄生し越冬します。そのため、畦畔の雑草管理や再生稲発生ほ場の耕起を確実にを行い、ヒメトビウンカの越冬場所を無くすことが、次年度のイネ縞葉枯病に対する有効な防除対策となります。これらの対策を実施し、次年度の発病を抑えましょう。

(イネ縞葉枯病の防除対策の詳細については、[病害虫防除対策のポイントNo.17](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中)

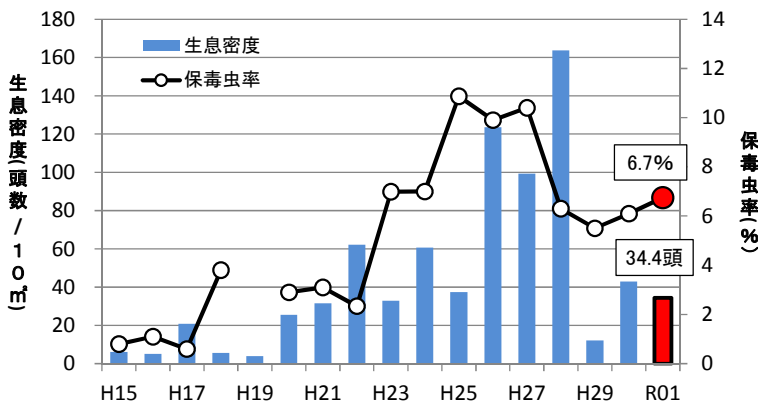


図1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び生息密度の推移



写真1 イネ科雑草に寄生するヒメトビウンカ



写真2 再生稲で発病した縞葉枯病

表1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の地点別イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率 (単位:%)

年		H29 2017	H30 2018	R01 2019
県北部	大田原市戸野内	1.0	1.0	5.3
	大田原市蛭畑	3.1	1.0	3.9
	大田原市親園	5.2	4.2	3.3
	那須烏山市滝田	5.2	3.1	4.3
	さくら市蒲須坂	4.2	3.1	8.7
	高根沢町花岡	5.2	6.3	4.3
県中部	真岡市青田	8.3	6.3	16.7
	宇都宮市横山	3.1	9.4	7.1
	宇都宮市雀宮	7.3	9.8	6.3
	上三川町上三川	7.3	13.5	6.5
	鹿沼市酒野谷	6.3	4.2	0.0
県南部	下野市絹板	13.5	13.5	13.3
	下野市小金井	11.5	5.2	9.4
	小山市小葉	1.0	8.3	4.2
	小山市石ノ上	8.3	10.4	13.8
	壬生町助谷	3.1	4.2	5.4
	栃木市惣社	4.2	5.2	4.2
	栃木市大平町真弓	0.0	1.0	9.4
	栃木市藤岡町富吉	9.4	5.4	0.0
	佐野市堀米	6.3	10.4	12.5
	足利市上洪垂	2.1	3.1	3.1
県北部		4.0	3.1	5.0
県中部		6.5	8.6	7.3
県南部		5.9	6.7	7.5
平均値		5.5	6.1	6.7

注:検定サンプルは、令和元(2019)年11月中旬~12月上旬に、水田畦畔や休耕田のイネ科雑草等から採取したヒメトビウンカ越冬世代幼虫を用いた。

検定方法: DAS-ELISA法 検定数: 27~96頭/1地点

詳細は、農業環境指導センター (TEL 028-626-3086) までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは当センターHP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)、ツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」でもご覧になれます。